Take Free（ご自由にお持ちください）

長岡赤十字病院健康だより

2017
Vol. 3
4/10 発行

あさのは

【基本理念】私たちは命と健康に向き合うことを医療の原点とします。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

長岡赤十字病院
長岡市千秋２丁目297-1
電話 0258-28-3600
ホームページアドレス
http://www.nagaoka.jrc.or.jp/

重症喘息の新しい治療
【気管支サーモプラスティ（BT 治療）】

副院長・呼吸器内科部長　佐藤　和弘

気管支喘息は呼吸器疾患の中でもっとも有病率の高い疾患であり、日本でも約100万人が通院されています。

喘息を完治させる治療方法はないのが現状ですが、1980年代後半から本邦にも導入された吸入ステロイド薬が効果、副作用共に非常に優れた薬剤であり、喘息発作での緊急受診・緊急入院、ひいては喘息死を大幅に減らしております。このように大部分の喘息はコントロール可能になってきておりますが、最新の治療例えば高用量の吸入ステロイド薬（ICS）、長時間作用型β2刺激薬（LABA）などを併用してもコントロールつかない難治性喘息は少数存在します。

このような難治性喘息に対して日本で可能な治療は、生物学的製剤（抗IgE抗体の注射：ゾレア、抗IL-5抗体の注射：ヌーカラ）及び気管支サーモプラスティがあります。特に2015年4月より日本でも気管支サーモプラスティ療法が健康保険で可能になりました。当院では、平成28年9月より導入し、これまで2例治療を行いました。この治療は気管支鏡下に行う処置で、気管支鏡に細いバスケット型の電極カテーテルを挿入し、気管支壁を約65℃に10秒間毎、位置をずらして加熱を行います。それにより、喘息の気管支収縮の要因とされる肥厚した気道平滑筋の量を減少させて気道の反応性を抑制し、喘息症状を緩和します。処置は3週間の間隔を空け3回セットで行い、その際は入院が必要になります。本治療により喘息の患者さんの79%で生活の質の向上、重症の発作頻度が32%減少、救急外来受診頻度が84%減少、欠席欠勤が66%減少することが証明されており、その効果は少なくても5年以上持続すると報告されております。副作用は一過性の喘息症状の悪化、血痰、気管支炎肺炎などですが、重篤なものはまれとされております。

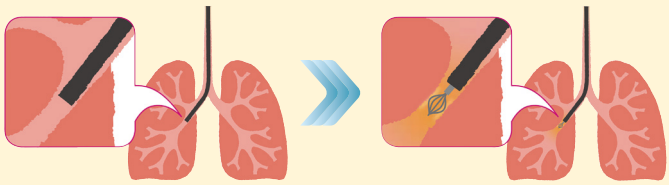
喘息の薬を何種類も同時に使って治療を行ったが、喘息がなかなかよくならない方は主治医の先生にご相談ください。

麻酔下で内視鏡を使って行う、体への負担の少ない治療法です。気管支の中に入れた内視鏡の先端から電極付カテーテルを出し、気管支の内側を65度に温めます。

気管支を65度に温めます

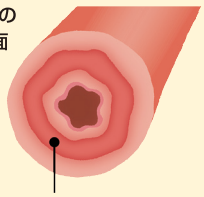
❶内視鏡を気管支の中に入れます

❷内視鏡から電極付カテーテルを出し、その先端で気管支の内側を温めます



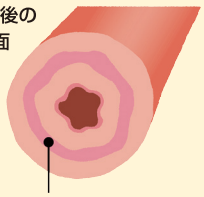
気管支を温めると、喘息症状が起こりにくくなります。

BTを行う前の気管支の断面



気管支の周りの筋肉が厚くなっていて、空気の通り道である気管支が狭くなりやすい状態です。

BTを行った後の気管支の断面



気管支を温めると筋肉が薄くなり、気管支が狭くなりにくくなります。そのため、喘息症状が抑制されます。

ドクターヘリがやってきた

救命救急センター長　江部克也

3月29日からドクターヘリがやって来たのを、皆さんはご存知ですか？

新潟県では、平成24年の秋から新潟大学病院を基地病院として、ドクターヘリの運行が始まりました。おたまじゃくしのようなシルエットのヘリコプターを見たことのある方もおられると思います。現在では、年間600回以上の出動要請が来るまでになっています。

面積の大きな青森県・長野県や静岡県では、前から2機体制（北海道には4機も！）となっています。新潟県では、ヘリを使っても端から端まで1時間はかかるので、早くから2機目の導入が考えられていました。そして平成27年秋には新潟県2機目の基地病院に日赤病院が選ばれました。正式には「新潟県西部ドクターヘリ」といいますが、通称を「長岡ドクターヘリ」、もっと縮めれば「長岡ドクヘリ」です。

当院が採用したヘリコプターは、流線型のおさかなのような形をしています。この機体をドクターヘリとして採用しているのは、全国40機以上あるドクターヘリのうち、函館・富山・鹿児島・奄美と長岡のみで、なかなかレアものの機体です。時速220kmで飛ぶおたまじゃくし（つまり1号機）もなかなかのものですが、長岡のドクターヘリは時速280kmで飛ぶ、頼もしいおさかなです。夜の間は病院の裏手の駐車場脇の格納庫でお休みしていますが、お天気のいい日中はヘリパッド（格納庫隣の離発着場所）に出してあります。信濃川の土手からは、機体が目の高さから見えるという、絶好の観察ポイントになりますので、一度見てくださいね。ただし、要請時には急に飛び立つことがありますし、離発着時はかなりの強風は吹きます。安全のため、係員の指示に従い、ヘリポート脇からは離れてください。

さて、ドクターヘリを呼ぶにはどうしたらいいと思いますか？　残念ながら皆さんから直接呼び出すことはできません。急患で救急車の要請が消防署に入り、消防署の司令がドクターヘリを頼んだほうがいいと判断した時に出動の要請をします。要請があれば、5分以内に飛び立てるように、医師（フライトドクター）と看護師（フライトナース）は、いつでも出動できる格好をして救急外来で仕事をしています。テレビドラマほどイケメンではありませんけど、救急にも災害にも訓練されている頼もしいメンバー揃いです。

このフライトドクターとナースが現場に飛び、そのまま治療を開始し、すばやく病院に搬送するのが、ドクターヘリのお仕事です。前知事の泉田さんは、ドクターヘリの導入を決めるときに、「全県民が、できるだけ短時間で高度な医療を受けることができるように」とおっしゃっていましたが、救急隊とも連携することで、全県規模ですばやい医療・すばやい搬送を行うことで、一人でも多くの患者さんの命を救えるように頑張りたいと思います。

なお、ドクターヘリは、日没以降は、安全を考えて飛行しないことになっていますし、操縦は専門のパイロットと整備士が担当しています。常に安全運行を第一に考えていますので、地元にやってきた長岡ドクターヘリを見守っていただければ嬉しいです。

イベント情報

開催時期	イベント内容	場所
5月29日（月）13：30 ～ 15：00	赤十字健康生活支援講習	長岡赤十字病院　講堂

患者会からのお知らせ

5月20日（土）　日赤千秋会講演会「糖尿病とがん」
場所／病院内　第一会議室　（講師：外科部長　谷 達夫医師）

詳しくは院内掲示のポスター、または当院ホームページのお知らせをご覧ください。